

自分一人では試合に勝てない

ーもやしからのメッセージー

Jリーグ横浜FCの三浦知良（みうら かずよし，1967年2月26日ー）は，日本の現役最年長プロサッカー選手です。三浦知良ことカズのお母さん，三浦由子さんから聞いた子ども時代の話です。

カズは，生まれたときは3100グラムの元気な赤ちゃんでした。一年七か月違いの兄の泰年はほとんど手もかからず育ちました。でも，カズは，夜泣きはするし，人見知りもするしで，とても手のかかる子どもでした。生後一か月健診で，おなかに水がたまる病気が発見されて手術をしました。一歳過ぎと小学三年生のときに手術をして，将来，病弱になるのではないかと，とても心配しました。

それでいて動きがすばしこいので，目をはなせませんでした。ヨチヨチ歩きするとき，目をはなしたちょっとした隙にお茶をひっくり返して大やけどをしたことがあります。

小学生のときほ，からだが小さいほうでした。入学したのは静岡市立城内小学校です。学校までの距離は，家から歩いて15分ぐらいかかりました。

小さいときからジーンとしているのがきらいで，授業中もおちつきがなかったと思います。先生の手をずいぶんやかせた子どもでした。でも，人なつっこい子で友達はたくさんいました。勉強は苦手でフンパクでしたが，小学四年生のとき，学級委員にも選ばれたこともあります。そのころからカズには，人をひきつけるなにかがあったのです。

静岡市立城内中学校に進んでからも，背はあまり伸びませんでした。身長は138cmですから，小さいほうだと思います。

そのころカズは，兄の泰年とともに叔父の納谷義郎が監督をしている『城内FCサッカークラブ』の中心選手として活躍していました。先生たちの間では，「よく体が小さいのにサッカーができるものだ」とか，「授業中，よく舟をこいでいる（居眠りしていること）が，サッカーの練習で疲れているのではないか」などと話題にのぼったそうです。

中学生のとき，カズはサッカーのことしか頭にないような子どもでした。登下校のときもリフティングをしながらでしたし，教室の中でもサッカーボールを放さなかったと聞きました。

授業中にボールを持っているのが見つかって，即座にボールを取り上げられてゴミ箱に捨てられたこともありました。そのとき，カズは，「サッカーボールはぼくのいのちです。」と，先生にくってかかっていったそうです。その一言で，その先生はカズがサッカーにかけ

る情熱を感じとったそうです。

カズが、ブラジルへ行ってサッカーをやりたい、と言い出したのは中学生のころでした。

当時のカズは、背と同じようにサッカーの技術も伸び悩んでいました。兄の泰年は、少年団チームや、ジュニア・ユース（中学選抜）に選ばれたり、中学校のサッカー部のキャプテンになったりして活躍していたのです。カズは泰年ほど目立った存在ではありませんでした。

カズは、以前から「ボールを持ちすぎる」と注意されていました。

カズが所属しているクラブチームが、焼津市へ行って試合をしたときです。カズがパスをしなければならぬところをパスをしないので、得点を重ねることができずに試合に負けてしまいました。

「自分一人で得点すると思うな」と、監督にさんざん怒られて、罰として焼津市から静岡市まで歩かされて帰ってきたことがあります。焼津市と静岡市とは約20km離れています。

4時ごろ焼津市を出発し、家に着いたのは夜の9時すぎでした。それ以来、カズは自分一人では試合に勝てないことがわかったといいます。

「かあさん、ぼく、高校に行かず、ブラジルへ行きたい」

と言い出したのは、カズが中学生のときでした。カズは一日でもはやくプロの選手になって、「かあさんをらくさせてあげたい」というのが口ぐせでした。

結局、カズはスポーツ推薦された静岡学園に入ります。

でも、ブラジル行きの夢を捨てずに、高校を一年生で中退してブラジルへ行きました。

そのとき、カズは15歳になっていたのです。身長も163cmに伸びていました。それでもけっして大きいほうではなかったのです。でも、サッカーに対する情熱と、将来、絶対にプロのサッカー選手になるのだという信念と、そのための努力はだれにも負けない子どもでした。

さて、いかがだったでしょうか？

彼こそが「もやし」を実践しているとは思いませんか。

「目的」は「プロのサッカー選手になること」。

そのためにはもちろん日々「やる気」を出してサッカーに取り組みました。「情熱」と「信念」という言葉がお母さんの話に出てきますね。

そんな彼の「手段を研究して実行すること」、それはブラジルへ行ってサッカーを学び、技術を高めることでした。

そんなふうにしかりとした目的意識と、すごい情熱でサッカーの技術を高めたからこそ、彼は、今でも現役でサッカー選手を続けていられるのです。

そして「自分一人では試合に勝てない」ということ。チームプレーを必要とするスポーツでは当然のことでしょう。いくらプロになるほどのうまい技術を持っていたとしても、その選手一人の力でチームが勝てるということにはなりません。

まもなく合唱コンクール。これもまた自分一人では入賞できません。いいハーモニーにはなりません。そして、たくさん人がいるのだから、自分一人くらい声を出さなくてもいいだろう、という考えではこれもまた、いい合唱にはなりません。サッカーで一人の選手が自分の力を出さなくてもいい、と思ったらチームとして負けるのと同じです。

それにしても、どの道でもプロの話からは学ぶことが多いものです。